

さぬき市教育事務点検評価委員会（第2回） 会議要旨

- 1 日 時 令和5年8月17日（木） 9：30～10：25
- 2 場 所 さぬき市寒川第2庁舎203会議室
- 3 出席者 【委員】三井重彰 渡邊千栄美 多田照代  
 【事務局】和田教育長 佐藤教育部長 安倍教育総務課長  
 高西学校教育課長 細川生涯学習課長  
 酒井幼保こども園課長 多田教育総務課課長補佐
- 欠席者 1名 【事務局】山田人権推進課長
- 傍聴者 1名
- 4 議 題 (1) 教育委員会の事務の点検及び評価報告（原案）及び委員の意見等  
 について  
 (2) その他
- 5 会議の内容

発言者	意見概要
教育部長	<p>それでは、ただ今から第2回さぬき市教育事務点検評価委員会を開会します。なお、本会議については、「附属機関等の委員の構成及び会議の公開に関する指針」により原則として公開となっております。また、公開の方法については、会議の傍聴を認めることにより行うこととしておりますが、本日、1名の方から傍聴の申請があり、許可しておりますので、報告させていただきます。</p> <p>それでは、はじめに教育長から御挨拶申し上げます。</p>
教育長	(教育長挨拶)
教育部長	<p>前回の会議でいただいた御意見等を基に、素案を修正して原案としています。まず、修正箇所について、一括して教育総務課長から御説明します。</p>
教育総務課長	(前回以後に記述を修正した箇所について、資料に基づき説明した。)
教育部長	<p>ただ今の説明について、御質問や御意見等はありませんか。</p> <p>無いようですので、次に、委員さんから事前に書面で御提出をいただいた点検及び評価報告に対する御意見を、教育方針等項目ごとにまとめています。これに関して、何か補足説明あるいは更に御意見等があればお願いします。</p>
委員	<p>全国学力状況調査の結果が発表されていましたが、中学校英語については、全国平均をマイナス2点下回る結果となっていました。グローバル社会において、危機感を感じました。全体的に英語力を上げていく必要があるのではないかと思います。</p>

教育長	<p>今後は、さらに小中学校の英語の学習について、強化を図る必要があると感じています。学校と連携を図りながら、英語力を上げる取組について考えたいと思います。</p>
委員	<p>ケーブルテレビで、細川林谷記念館が建築されていることを知りました。近隣の方、地元の方には、お知らせをしていると思いますが、そういった計画を前もって広く知らせてほしいと思います。</p>
生涯学習課長	<p>文化財関係者や文化芸術関係者には、基本設計等の段階からお知らせしています。しかし、関係者以外への周知が不十分であったかもしれません。今後、気をつけます。</p>
委員	<p>もう少し広く周知をすると、記念館建設の気運が高まると思います。</p>
委員	<p>英語力は、これからのグローバル社会において非常に重要だと思います。</p> <p>ただ、全国学力学習状況調査（以下「調査」という。）の得点に、必要以上に神経質にならなくてもよいのではないかと考えています。この調査は、1回だけの評価テストだということ、また、テストを受ける上でのテクニカルな問題もあり、僅差の点数に拘る必要はないと思います。</p> <p>調査が始まった頃、一部の地域では予想問題を作成して準備するなど、調査の意図に反して、徒に競争意識をあおるような行き過ぎた指導もありました。</p> <p>さぬき市の得点が、若干低かったのは、多分、調査の得点を上げるための特別な指導をしていなかったからではないでしょうか。日常学習の延長線上にある、あるがままの学力の実態を把握するという根本的な理念を尊重していると思われまますし、それが現実にあったふさわしい調査だと思います。</p> <p>英語力（語学）というのは、日常の生活環境に左右されます。</p> <p>日本人は、英語の教育期間に比べ英語が話せないと言われますが、日常生活の中で英語に触れる機会が皆無に近いことを考えると当然のことだと思います。</p> <p>そういう意味も踏まえ、さぬき市の得点が、若干低くても地域性を考えると納得のいくことでもあり、特に神経質になる必要はないのではないかと考えます。</p> <p>むしろ大事なことは、十分に周知のことですが、他の教科も含め調査結果を真摯に受け止め、問題点を分析し、日常の学習指導に生かしつつ、常に教育の本質を見つめ、児童生徒に必要な教育を提供することだと思います。</p> <p>不登校についても同様です。不登校には、実に様々で複雑な背景や原因が交絡し社会現象化しています。</p> <p>一般的な用語ではありませんが、カウンセラー効果というのがあり、カウンセラーが配置されると相談件数が激増し、一時的に不登校が増える場合があります。それまで我慢し、頑張っていた児童生徒は、相談場所ができたことで安心感が生まれ、学校不応症症状が生じる場合があります。もちろん、社会環境、保護者の考え方等の変化もありますが、複雑な心理模様もあり、カウンセラー等の配</p>

<p>委員</p>	<p>置によって、該当する児童生徒は救われますが、実に残念なことに全国的にも不登校は減少していないのが現実です。</p> <p>教育に限らず社会資本・施設等が充実すると多様な価値観が生まれます。学校に行かなくても大丈夫だと考える保護者も現れます。救われる児童生徒もいますが、依存が生まれる場合もあります。（事例：熊本県の赤ちゃんポスト「このとりのゆりかご」（説明のため、追加）</p> <p>以上のような点を踏まえ、さぬき市教育委員会には、大局を見つめ、「変化できる者が生き残るのだ」（C.ダーウィン）の言葉（他説有り）にありますように、これからの激動する社会変化に対応できる人間を育ててほしいと思います。教育の本質である人や人の心を育てることを羅針盤とし、学校教育の指導に腐心していただきたいと思います。</p> <p>別件ですが、部活動の地域移行についてです。</p> <p>さぬき市として、現実に移行は可能なのでしょうか。完全移行は、難しいように思われますが、どうでしょうか。</p> <p>一方、部活動の先生との関係性を大事にしている子どもがいると思うので、地域移行が子どもにとってどう影響するのか心配です。</p> <p>部活動が時間外勤務の原因とされていますが、保護者や子どもからニーズがあるからそれに応えている、そのような相互作用があるのではないのでしょうか。</p> <p>特に部活動が楽しみ、部活動があるからとか・・・、部活動の先生との強い関係性に支えられている子どもが存在していることも事実なので、教育的な面から考え、例えば、部活動の指導がしたいという先生は、勤務時間外でも勤務体系（賃金を含む。）を換え、指導できるような、さぬき市としての独自の移行方法ができればよいと思いますが、どうでしょうか。</p> <p>学校の先生の中には、部活動の指導を仕方なく担っている方が多くいらっしゃると伺っています。地域にも指導できる方がいます。そういった地域の力を借りることは重要です。地域移行には、賛成です。今後は、計画や方向性、その方法を決定し、進めて行くべきです。教員の働き方改革の一環として、大いに期待しています。</p> <p>幼稚園教育に危機感を感じています。幼稚園は、幼稚園教育要領に基づいて、就学前教育を進めています。広い園庭もあります。先日、孫の子ども会行事に参加した際に、お母さん方と情報交換をする機会がありました。幼稚園の預かり保育が午後6時半まで実施していること、給食の提供のない夏休みについては、地元の信頼できる業者のお弁当を注文できることなど、幼稚園の情報について知らない人が多かったように思います。</p> <p>幼稚園からの情報、入園の働き掛けはどのようにしていますか。例えば、園庭開放などは、実施しないのでしょうか。</p>
<p>幼保こども園課長</p>	<p>園庭開放を実施している園はあります。また、今年度は、園庭開放を実施する園を増やす予定にしています。入園案内のポスターも作成していますし、HPや</p>

委員	<p>SNSなどを使って幼稚園の活動や行事を掲載し、幼稚園についてもっと知ってもらおうと先生方も努力しています。ただ、夏休み中のお弁当については、今後も入園募集の際に周知を徹底するようにします。</p> <p>入園募集等に際して、ボランティアに協力を要請するのはどうでしょうか。学校支援ボランティアなども幼稚園の情報をたくさん知っていますので、そういったボランティアの方に様々な情報を周知していただくと、幼稚園教育の情報発信に繋がります。</p> <p>民間の施設とのバランスが難しいとは思いますが、市の教育委員会としても、幼稚園教育の必要性を働き掛けてほしいと思います。総合教育会議でそういったテーマについて議論しないのでしょうか。</p>
教育長	<p>ここ10年間で急速に少子化が進んでいます。その一方で、子育て支援については、様々な施策が進められています。その中で、保育所の福祉的な要素が強化され、保護者の選択が保育所の方に傾いているように思います。</p> <p>幼稚園の「遊びの中での教育」は、素晴らしいものであり、幼稚園では、そういった教育が提供できることについては、強調すべきことです。</p> <p>幼稚園、保育所、こども園という様々な施設があるので、それぞれの施設がそれぞれの特性を生かしながら、切磋琢磨し、指導力を磨いています。そういった努力が就学前教育の充実につながると信じています。</p> <p>ただ、子どもの人数を考えると施設の数が多いので、今後、議論すべきことであると考えています。</p>
委員	<p>就学前教育施設については、大きく変化しています。どの施設を選択するかは、保護者の判断ですが、判断基準として、幼稚園の情報を広く周知することは必要です。</p>
委員	<p>就学前の子どもに対する幼稚園や保育所、こども園に関する情報の周知、案内等はどのようにしていますか。</p>
幼保こども園課長	<p>ホームページ、広報などで周知しています。転入者などには、寒川庁舎にある子育てサポートセンターなどで案内、周知をしています。</p>
委員	<p>幼稚園と小学校は就学前に交流をしています。保育所やこども園についても同様に小学校へつなぐ機会を設けているのでしょうか。</p>
教育長	<p>保育所やこども園も小学校との就学前交流は行っています。どの施設も小学校への円滑な接続をねらいとした取組や研修等に力を注いでいます。</p>
教育部長	<p>本日、委員の方々から提出されました意見については、できる限り、教育施策</p>

に反映していきたいと考えております。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

それでは、本日ご審議いただきました、この原案については、22日に開催予定の教育委員会第5回定例会に正式に議案として提出し、教育委員会で議決を得られれば、正式な報告書として市議会に報告するとともに、ホームページ等で公表したいと考えています。

以上をもって、本日の会議を閉会します。ありがとうございました。